

令和５年度千葉市健康づくり推進協議会

第１回食育推進部会議事録

１ 日 時：令和５年５月３０日（火）午後７時～午後８時１５分

２ 場 所：千葉市役所 ２階 「XL会議室 ２０１・２０２」

３ 出席者：（委員）

安達浩二委員、市橋由美子委員、宇野直樹委員、大濱洋一委員、
大矢郁乃委員、小川順子委員、佐久間正明委員、篠原雅子委員、
志村幸子委員、高澤みどり委員、渡邊智子委員

（委員１７名中１１名出席）

※欠席委員

安藤裕子委員、伊藤雄介委員、小田島謙委員、岸憲秀委員、
斎藤昌雄委員、森川岩視委員

（事務局）

富田健康福祉部長、椎名健康福祉部技監、木村男女共同参画課長
補佐、高澤消費生活センター所長、高塚保健福祉総務課担当課
長、前嶋地域包括ケア推進課長、岡田健康支援課長、田中生活衛
生課担当課長、田中保健所食品安全課長、清田高齢福祉課長、小
島健全育成課主査、高木こども家庭支援課長、高桑幼保支援課長
補佐、渡邊幼保指導課担当課長、齋藤廃棄物対策課長補佐、南農
政課長、日高稲毛保健福祉センター健康課長、八斗教育指導課
長、渡邊保健体育課担当課長、内海生涯学習振興課長、田中健康
推進課長、山田健康推進課担当課長、山田健康推進課長補佐

４ 議 題

- （１）第３次千葉市食育推進計画の取組状況について
- （２）第４次千葉市食育推進計画策定に係るアンケート調査について
- （３）第３次千葉市食育推進計画 数値目標の達成状況について
- （４）第４次千葉市食育推進計画の骨子案について
- （５）その他

5 議事の概要

- (1) 第3次千葉市食育推進計画の取組状況について
事務局と各関係機関・団体から令和4年度の活動報告を行った。
- (2) 第4次千葉市食育推進計画策定に係るアンケート調査について
健康推進課から令和4年度に実施した食育に関するアンケート調査の結果について説明した。
- (3) 第3次千葉市食育推進計画 数値目標の達成状況について
健康推進課から第3次千葉市食育推進計画数値目標の達成状況について説明した。
- (4) 第4次千葉市食育推進計画の骨子案について
健康推進課から第4次千葉市食育推進計画の骨子案について説明した。

6 会議経過

午後7時 開会

(山田健康推進課長補佐) お待たせいたしました。

定刻となりましたので、ただいまから令和5年度千葉市健康づくり推進協議会第1回食育推進部会を開催させていただきます。

私は本日の司会を務めさせていただきます、健康推進課課長補佐の山田と申します。よろしくお願い致します。

会議内容は、議事録作成のため、録音させていただきますのでご了承ください。

本部会の開催につきましては、千葉市健康づくり推進協議会設置条例第7条第7項の規定により、委員及び臨時委員の半数以上の出席が必要でございます。

委員総数17人のうち、11人のご出席をいただいておりますので、会議は成立しております。

また、千葉市情報公開条例の規定により、千葉市の審議会等の会議は原則公開となっておりますので、本部会につきましても、公開での開催とさせていただきます。

議事録につきましても、部会長の承認による確定後、千葉市ホームページなどで公開しますので、あらかじめお知らせいたします。

それでは、会議に入ります前に、お手元の資料の確認をさせていただきます。次第、席次表、千葉市健康づくり推進協議会 食育推進部会 委員名簿、事

事務局出席者名簿、資料1-1「第3次千葉市食育推進計画取組一覧」、資料1-2「関係機関における食育推進の取組み一覧」、資料2「第4次千葉市食育推進計画策定に係るアンケート調査について」、冊子として「食育に関するアンケート調査報告書」、資料3「第3次千葉市食育推進計画数値目標評価一覧表」、資料4「第4次千葉市食育推進計画骨子案について」となります。

また、参考資料といたしまして、第4次食育推進基本計画（令和3～7年度）の概要、第3次千葉市食育推進計画概要版、千葉市健康づくり推進協議会設置条例の3点がございます。

以上の資料をお配りしておりますが、お手元の資料に過不足等ございませんでしょうか。

それでは、会議の開催に当たりまして、健康福祉部長の富田よりご挨拶申し上げます。

（富田健康福祉部長） 皆様、こんばんは。健康福祉部長の富田でございます。

本日はお忙しい中、また、夜分にもかかわらずご出席くださいます、ありがとうございます。

また、日頃より本市の保健衛生行政の推進並びに食育施策の推進にご理解、ご協力をいただいておりますことを重ねて御礼を申し上げます。本当にいつもありがとうございます。

さて、令和元年度から、皆様の連携協力のもと推進して参りました、第3次食育推進計画につきましては、今年度、最終年度を迎え、数値目標の達成状況についての評価を作成したところでございます。後ほど、事務局から評価についてご説明させていただきますが、この評価を踏まえ、また、国の第4次食育推進基本計画等も参考にして、本市の第4次食育推進計画を作成して参ります。

食育とは、皆様ご存知のように、心身の健康の増進と豊かな人間性の形成のために、食に関する知識や食を選択する力を身につけ、健全な食生活を実践することのできる人を育成していくことであり、その具体的な内容は、健康的な食のあり方や食の安全性を考えたり、誰かと一緒に食事や料理をしたり、食べ物の収穫体験や食品ロスの削減等、多岐にわたっております。

これら食育に関する取組を推進するためには、行政だけではなく、教育、農林漁業、食品関連事業、ボランティアの方々など、多くの関係者が密接に連携・協働しながら、子どもの頃から高齢期に至るまで、継続して活動を展開していくことが必要であり、様々な分野を代表する皆様方にご参画いただいております当部会の役割はとても重要であると考えております。

本日は、第3次千葉市食育推進計画の数値目標の達成状況や、第4次食育推進計画骨子案等につきまして、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(山田健康推進課長補佐) ありがとうございます。

続きまして、今年度新たに委嘱されました委員2名をご紹介します。

はじめに植草奈保美委員に代わりまして、千葉市小中学校長会北貝塚小学校長、大矢郁乃委員。

(大矢委員) 大矢でございます、よろしくお願いいたします。

(山田健康推進課長補佐) 続きまして、加藤康幸委員に代わりまして、千葉みらい農業協同組合常務理事、佐久間正明委員でございます。

(佐久間委員) 佐久間でございます。よろしくお願い申し上げます。

(山田健康推進課長補佐) その他の委員につきましては、恐れ入りますが、お手元の委員名簿にてご確認いただき、紹介は省略させていただきます。事務局の職員につきましては、お手元にお配りしております名簿により紹介に代えさせていただきます。

それでは、ただいまから会議に入らせていただきます。議事の進行につきましては、渡邊部会長、お願いいたします。

(渡邊部会長) 渡邊でございます。それでは、ここから議事の進行をいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、今回の議事録の署名人についてですが、部会長の署名によることとしたいと思います。いかがでしょうか。

〈異議なし〉

では、ご異議がないようなので、部会長の署名によることとしたいと思います。

それでは、議題1「第3次千葉市食育推進計画の取組状況について」、事務局より具体的な取り組み内容を報告していただきたいと思います。よろしくお

願います。

議題1 第3次千葉市食育推進計画の取組状況について

(田中健康推進課長) 健康推進課です。

私からは、健康寿命の延伸につながる食育ということで、健康課や私どもで実施しております事業についてご説明したいと思います。

私どもの方では、各ライフステージにおきまして、お子さんから高齢者の方まで様々な手法で啓発を実施しております。

まず、資料1-1、基本施策の1番、「家庭・地域における食育の推進」の5番をご覧ください。

若年者を対象とした食育の推進として、小学生向けに、食育情報誌を作成しております。こちらにつきましては、大学生等にもご協力をいただきまして作成いたしました。

また、こういった冊子の作成の他、栄養や歯科に関する啓発講座等も実施しております。歯科に関するものは24番から29番に記載されていますが、ヘルシーカムカムというイベントの開催や、妊娠中の方、高齢者、乳幼児等に対し健康教育等により普及啓発を図っております。

最後になりますけれども、基本施策の5番、「食育推進運動の展開と連携・協力体制の確立」として、82番には、食育推進運動を展開していくために、当部会所属団体の皆様にもご協力をいただき、食育のつどいを開催しております。昨年度は中央区のアリオ蘇我において、巡回パネル展とイベントという形で実施をし、2,181名の方に参加いただきました。

また、健康づくりのネットワークを活用した食育の推進として、健康づくり支援連絡会を開催し、様々な方々と連携して食育を推進しております。

また、食や健康づくりに関するボランティア活動を行う食生活改善推進員の育成として、養成講座などを実施し、昨年度は、養成講座修了者数が36名となっております。健康推進課からは以上となります。

(清田高齢福祉課長) 高齢福祉課です。

高齢福祉課長の清田です。よろしくお願いします。

私からは、通し番号の22番、高齢者の共食に関する環境づくり支援についてです。

こちらは、通所支援（体操、サロン等を通じた日中の居場所づくり等）に対

する補助を通して地域における共食の機会をふやすことを支援します。この事業は要支援の認定を受けた方の集いの場として、地域の担い手の方にサロンなどを開催していただいた場合に、財政基盤が脆弱ですので市が助成するという事業になります。実績として、令和4年度は3団体に助成を行いました。

この支援を受けている団体は市内に8団体ですが、新型コロナウイルス感染症の関係で活動が低調になっていたり、また助成対象となる要支援の認定を受けた方がいなかった等の影響により、令和4年度の助成実績は3団体でございました。

本来でしたら地域の身近な場所の集いの場で、気軽に食事を共にしたり、お菓子を食ったり、お茶を飲みながら近況を語り合うなどの場ですが、そういった活動が、新型コロナウイルス感染症の影響により人と人の接触を避けるというようなことが長く続き、失われてきています。

今年度、新たな計画を立てる予定がございしますが、コロナ後の高齢者福祉を考えた場合に、集いの場などをはじめ、地域の中での人と人の繋がりが失われかけている状況において、今後の3年間の計画の中で、このような地域での支え合い活動をいかに復興させていくか、失われたものを取り返し、それ以上のものを作っていくかが大きな課題になると考えています。以上でございます。

(渡邊幼保指導課担当課長) 幼保指導課の渡邊です。

私からは幼保指導課の取り組みについてご説明いたします。

幼保指導課からは主に公立保育所の取り組みについてのご報告となります。

はじめに、38番、食育計画の作成、39番、保育を通じた食育活動、40番、管理栄養士による個別指導です。

保育所保育指針や、保育所における食育に関する指針に基づき、乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるよう全体的な計画及び食育の計画を作成しています。

また、全職員が専門性を生かし、食育計画に基づき、保護者と連携しながら、子ども一人ひとりの発達・発育に応じた食育を推進しております。

各保育所、認定こども園に栄養士、看護師等専門職が在籍しておりますので、保育士と連携し、離乳食や食物アレルギーへの対応、偏食、肥満、マナーなど、個別の面接指導を実施しております。

次に、46番、職員研修の充実です。

保育所、認定こども園における魅力ある効果的な食育の推進に向け、栄養士や保育士、看護師等の職員を対象に研修を行っております。研修の内容につきましては資料の通りでございます。

47番、特色のある保育所・認定こども園等の給食についてです。

旬の食材を取り入れ、栄養のバランスのとれた献立を作成し、発達段階に応じた食事形態の給食を実施するとともに、一人ひとりに合った援助をしております。

また、毎年栄養士会で食に関する調査を実施し、子どもの現状を把握し、献立内容の充実及び望ましい食生活へつなげております。

各保育所において、子ども一人ひとりの喫食状況、栄養バランス、家庭での食事状況を踏まえて、地域の食文化や行事食等を取り入れた献立を栄養士が作成し、発達の段階に応じた食事提供を行っております。

51番、栽培・収穫体験です。

栽培、収穫活動を体験し、野菜を見たり育てたりする喜びを実感することで、食の興味を育てております。これは、3歳未満児から栽培に関わっている保育所も多く、年上の児の姿を見たり、自分で収穫をして、それを給食室で調理していただき、その日のうちに食べたりという活動しております。

52番、クッキング保育です。

クッキング保育については食材に目を向け、自分で関わった料理を食べる楽しさや嬉しさを体験し、調理することに関心を持つようにしております。

トウモロコシ、そらまめなどの皮むきやキャベツちぎりなど、食事づくりに関わる理解を持ち、食の興味関心を高め、食べ物への感謝の気持ちを育てております。また、年長になりますと、ピーラー等を使用し、野菜の皮むきをしたり、ピザやクッキーづくりなど調理に関わることもあります。

次に55番、給食の展示です。

年間を通じ、給食の食事内容の展示を行っております。その際、レシピ紹介など栄養士を中心に紹介しております。

給食の展示については、保護者が迎えに来ると、毎日お子さんと給食の展示を見に行き、給食について親子で会話し、食に関心を持ってもらうことや、子どもが食べる食事量の目安になるように心がけております。

次に56番、ホームページでの情報提供です。

公立保育所55ヶ所の栄養士から食育サイト運営委員会を立ち上げ、食育のホームページ、おいしい！元気！ちばキッズという内容で、離乳食、幼児食のレシピや保育所での食育活動など、毎年テーマを設けてレシピ紹介等を行っております。また、子どもの食事に関する疑問に答えるQ&Aを定期的に更新しております。

次に57番、58番です。

保護者向けに毎月、給食だより、献立表を配布しております。その中で、旬の食材を使用したレシピ紹介や、バランスのよい食事について、郷土料理の紹介など、食育に関する情報提供を行っております。以上になります。

(渡邊保健体育課担当課長) 保健体育課でございます。

私の方からも何点かに絞って説明させていただきます。

3 ページ目の44番をご覧ください。食に関する指導です。令和4年度事業の実施状況ですが、各学校で作成されている体育科や家庭科等の年間指導計画や食に関する指導の年間指導計画に基づき、学級学科担任等が栄養教諭等と連携して、教科などの特質を生かした食に関する指導の授業を実施しております。

また、学校給食や食育に関する教材を活用し、食事の大切さ、食に関する知識、食文化についてなど食に関する指導の実践を積み重ねております。実施している学校につきまして、小学校と中・中等教育学校は全て、特別支援学校は2校で実施しています。

続きまして46番、職員研修の充実になります。

令和4年度の実施状況につきましては、栄養教職員を対象に栄養管理、衛生管理、食物アレルギーの対応、食に関する指導の実施に向けての研修等を行っております。また給食主任を対象にした研修会を実施して、朝食の大切さなど各学校における食に関する指導や取り組みの実践報告を行っております。実施、開催につきましては記載の通りになります。

続きまして、48番、学校給食を生きた教材として活用した食育の推進でございます。

こちらの実施状況につきましては、学校給食が教材として活用されるよう千葉開府900年にちなんだ「千葉氏ゆかりの地メニュー」、市内農産物を取り入れた特別メニューなど、特色ある献立を市内全校で実施しました。

また、給食に使用するそらまめやトウモロコシを活用し、例えばそらまめの皮むきといった様なことを実際に体験することで、食材について学び、触れ、給食で味わう体験活動を実施しております。

また、各学校で献立内容や会食形態を工夫し、食文化や食事の重要性を伝える機会を設けております。学校毎の活動別の実施状況は記載の通りです。

続きまして49番です。

市内産農畜産物を導入した学校給食の実施になります。

こちらの実施状況につきましては、新鮮な市内産農畜産物を学校給食の食材に積極的に取り入れ、地域の食文化や食に関する歴史、地元の農業への理解を深める取り組みを進めています。令和4年度は、食育の日、市民の日及び学校給食週間では、市内産農畜産物を取り入れた全校共通の特別メニューを年3回実施しております。さらに、地場農産物を活用した献立を実施するとともに、資料を配布し、オンライン放送で周知するなどの取り組みも行っております。取り組んでいる学校の状況につきましては記載の通りでございます。

当課の事業につきまして、一部新型コロナウイルス感染症の関係で縮小した

りしたものもありますが、おおむね計画通り実施できたと思っております。

ただ、59番の「地産地消」学校給食の試食会開催ですけれども、こちらは保護者の方に限定せず市民も対象に、地産地消の給食のメニューを試食していただくという形で実施しており、令和4年度につきましては新型コロナウイルス感染症の関係で実施は見合わせということになりました。今年度は実施に向けて準備を進めているところです。私の説明は以上になります。

(南農政課長) 農政課の南です。

食に関連する農業と畜産物に関する取り組みについてご報告させていただきます。

まず、50番、職員への市内産農畜産物に関する理解向上、63番、給食への市内産農畜産物の導入について、この2つは関連しますのでまとめてご報告させていただきます。

令和4年度の学校給食への市内産農畜産物の供給品目は10品目となっており、供給量につきましては、平成30年度に272トンだったものが令和4年度では323トンとやや増加傾向となっております。

3つの給食センターへの品目毎の供給率は、コマツナが91%、ニンジンが54%、ホウレンソウが52%となっておりまして、3品目について年間の使用料の半数以上を市内産で賄うことができております。

引き続き、栄養教諭も参加する学校給食への地場農産物の導入等の打ち合わせの場におきまして、供給品目の増加に向けて、関係者、関係機関との協議を続けていこうと考えております。

続きまして、60番、消費者への「農育」の実施につきましては、市内の農業や食への関心・理解を得るために行っているもので、令和4年度につきましては、落花生農家さんのもとで親子農家1日体験や、落花生の「おおまさり」の収穫体験というものを実施させていただきました。

次に61番、生産者による出張授業につきましては、令和3年度はオンラインで実施しておりましたが、令和4年度は引き続きコロナ禍でオンライン実施もありましたが、直接学校に出向いての授業というものを行いました。

実施に当たりましては、教育委員会と連携しまして、小学校計7校で実施しました。

続きまして62番、市内産農産物の見える化につきまして、コロナ禍において、自宅で市内産農産物を楽しめる取り組みとして、令和4年度については市内産農作物をひとつの箱に詰め合わせた「つくたべボックス」の販売や、市内産農産物を使ったオンラインの料理教室を実施しました。

加えて、「やさいバス」を利用する店舗が増えており、市内産農産物を消費

者が買える拠点が市内スーパーなどでも拡大している状況でございます。農政課からは以上です。

(齋藤廃棄物対策課長補佐) 廃棄物対策課の齋藤と申します。

廃棄物対策課では、環境に配慮した食育の推進を行っています。

67番、エコ料理の普及啓発ですが、例年、市内の高校生を対象に、エコレシピクッキング等を実施していたのですが、コロナ禍に入ってから、実施ができなくなりましたので、動画を制作し、全市立中学校に配布しております。今年度、授業の中で使っていただくことを推進しています。

エコレシピ動画では、ニンジン、小松菜、サツマイモ等、千葉県産を活用したレシピを紹介し、一般の方にもYouTube等でご覧いただけます。

また、69番ですが、廃棄物対策課では、生ごみとして出てしまったものについては、資源化して、また野菜等に生まれ変わらせて、資源循環の中で食べていただきたいため、生ごみ減量処理機等の補助金制度を推進しております。

70番の生ごみ資源化アドバイザーというのは、食べられないで残ってしまった生ごみを資源にして、生まれ変わらせようというのを推進している市民講師になります。市民講師の派遣もコロナ禍の中、5回派遣して、参加者が212人おりました。

次に、72番になりますが、1つ目として、ごみを出さない様に綺麗に食べ切りましょうという「食べ切りキャンペーン」を、市内のホテルと連携して実施しました。

また、2つ目として、食べ切れず残ってしまった手つかずの食材を、フードバンクちばに提供するフードドライブを実施しました。

3つ目として、高校生以上の学生を対象とした食品ロスワークショップをオンラインで実施しました。以上になります。

(渡邊部会長) ありがとうございます。

ただいま、市の所管課から、様々な取り組みを聞かせていただきました。

それでは、続いて資料1-2「関係機関における食育の取り組み一覧」をご覧ください。

委員の皆様のご所属団体での、令和4年度の食育活動の取り組みについてご報告いただきたいと思います。

本日は、千葉みらい農業協同組合、生活協同組合コープみらい千葉県本部、一般社団法人千葉県歯科衛生士会の3団体からご報告をお願いします。

それでは、はじめに千葉みらい農業協同組合 佐久間委員お願いいたします。

(佐久間委員) それでは、資料1-2の7番、千葉みらい農業協同組合のところをご覧くださいと思います。

先ほど農政課さんの方からも、給食の関係、また地元の農産物の取り扱い等のご報告がありました。その中で当JAとしましては、小学校に対しての出張授業として、生産組織の農家さんを中心に、令和4年度につきましては4品目の農産物に対して、4校で実施いたしました。

また、食育活動ですが、農業の体験として、女性部・青年部という我々の組織を活用し、田植えや稲刈り、また田んぼには出向かないバケツイネでの米づくり等で小学校の生徒さんと交流を図りました。

青年部の活動の中で、サツマイモ、ジャガイモ等の収穫体験として、昨年にはそれぞれ2校ずつ実施しました。

また、市内産の学校給食の食材として、千葉市産のお米、コシヒカリを中心に、米飯給食ということで提供させていただいています。野菜の農産物につきましては、ニンジン等12品目を供給させていただいています。

また、女性部の活動を中心に、郷土料理として、太巻き寿司等の体験を例年各小学校に出向いて行っています。昨年につきましては新型コロナウイルス感染症等の関係で中止させていただきましたが、今年度は実施していくところです。以上です。

(渡邊部会長) ありがとうございました。

ただいま千葉みらい農業協同組合の取り組みについてお話いただきました。続いて、生活協同組合コープみらい千葉県本部 安達委員をお願いします。

(安達委員) コープみらいの安達と申します。よろしくお願いいたします。

私どものところでは、食育の出前授業を昨年は5回実施し、1回はオンラインで実施しました。

今年度は出前授業の依頼も多くなり、現在、6件の依頼が来ている状況です。

組合員活動での食育企画では、地域の居場所づくりとして、商品の紹介や試食をすることで、コミュニケーションを取る内容となっています。

先ほど報告がありましたが、千葉市の食育のつどいでは、私達も啓発パネルの掲示や、ブース出展で一緒に参加させていただいております。

フードバンクの支援は、今までも実施しておりましたが、コープ花見川店、コープ東寺山店で常設のボックスを設置させていただき、都度フードバンクちばに寄贈しています。

また、物流の過程で破袋してしまったお米等もフードバンクちばへ寄贈させ

ていただいております。

昨年は生活困窮者支援および日本の米づくり応援としまして、千葉大学の学生700人にお米を寄贈したり、フードバンクちばや社会福祉協議会と連携し、コープみらい全体で200トンのお米を寄贈しました。

コープ花見川店でフードドライブを実施していますが、こちらも千葉の花見川ライオンズクラブと協力し、店頭での呼びかけを3日間行いました。

また、お米寄贈の中継地点である千葉海浜センターに破袋したお米等をいったん集め、淑徳大学の学生さんを受け入れて運搬作業の体験をする機会を設けさせていただきました。

また、フードバンクちばと協力してフードライブキャンペーンを実施し、このような取り組みを知ってもらうために、子どもの参加を募り、子ども記者体験を実施しました。

最後に、「コープみらいフェスタきやっせ物産展2023」を2月19日に4年ぶりに実施し、お買い物など様々な企画を体験していただきました。今年度も2024年2月18日に実施予定です。以上になります。

(渡邊部会長) 安達様、ありがとうございました。

では最後に、一般社団法人千葉県歯科衛生士会、高澤様お願いいたします。

(高澤委員) お世話になっております。一般社団法人千葉県歯科衛生士会の高澤と申します。よろしくお願いいたします。

資料1-2の10番に、歯科衛生士会の活動を報告させていただいております。

まず、「かむ子・のびる子・元気な子」料理コンクールは、平成6年から食育推進活動の一環として開催しており、令和4年度で29回目を迎えております。平成17年度からは「健康かみかみ弁当」というテーマで作品を募集しております。

昨年度は、応募が224点で、書面で1次・2次審査を行いました。

コロナ禍の前は、第2次審査では実際にお弁当を作ってきていただいて、審査員が五感で食べてみて審査をしていたのですが、ここ数年は2次審査も書面審査という形になってしまい、なかなか審査が難しいところです。千葉県知事賞、千葉県歯科医師会長賞など、10作品を表彰し、今年の食育のつどいで、新しい表彰作品を展示させていただく予定です。毎年、料理コンクールの受賞作品のレシピを紹介させていただいております。

いい歯のイベントでは、「スマイルアップちば体操」を実演しておりますが、こちらは千葉県歯科衛生士会で作成しましたオリジナルの「健口体操」で

ございます。千葉県からの委託事業で、平成19年度に作成しました。

「GO!GO!8020」という一度聴いたら忘れられない千葉県歯科医師会のオリジナルの軽快な曲に合わせて、お顔の体操、ベロの体操、唾液腺マッサージ等、いろいろな口の体操が入っており、小さなお子様から高齢者の方まで、誰もが楽しめる健康体操となっております。コロナ禍でなかなかできないのですが、食育のつどいでもDVDの放映だけは実施しました。去年は少し体操を披露することもできました。

「食べる」というところで、歯科衛生士も大いに食育活動に参画させていただいております。以上となります。ありがとうございました。

(渡邊部会長) 高澤様、ありがとうございました。

今発表いただいたことや、その他の取り組みのご報告が資料にありますが、これらについて質問等ありましたらお願いいたします。

<質問なし>

よろしいでしょうか。

それでは、議題2に移りたいと思います。

議題2「第4次千葉市食育推進計画策定に係るアンケート調査について」、事務局より報告をお願いいたします。

議題2 第4次千葉市食育推進計画策定に係るアンケート調査について

(田中健康推進課長) 資料2をお手元をお願いします。

食育に関するアンケート調査を昨年実施しましたので、ご報告させていただきます。

まず、食育に関心がある人の割合につきましては、61.4%でベースライン値からほぼ変化しておりませんでした。

続きまして「食育とは何か」を伝えて関心の有無を聞きましたところ、関心がある人の割合は81.8%でした。

食育とはどういうものかについては記載のとおりですが、全国の調査では、食育の解説をして食育への関心を聞いております。同様の方法で行ったところ、全国値とほぼ同等の結果でございました。

実践したいと思う「食育」につきましては、健康寿命の延伸に繋がる食育に関連する項目を選択した方が約半数を超えておりました。

また、食べ残しや食品の廃棄を削減したいと回答した方も2番目に高い状況

にあり、環境への関心も高いことが伺えます。

続きまして、子どもの「共食」の状況をまとめております。左側が朝食、右側が夕食となっております。朝食を1人で食べる子どもの割合が、保育所・幼稚園では、3次計画策定時と比べて高くなっており、中学2年生では低下しております。夕食については、朝食よりも1人で食べる子どもの割合が低い状況となっております。

続きまして、朝食の欠食状況です。

朝食を欠食する割合は、3次計画策定時に比べると、保育所入所以外の区分で高くなっています。

続きまして、生活習慣病予防のための食生活として、生活習慣病の予防や改善のために、普段から適正体重の維持や減塩に気をつけた食生活を実践しているか確認したところ、3次計画策定時に比べ、実践している人の割合は増加しました。こちらにつきましては、全国の値に比べても千葉市の数値が高い状況となっております。

適正体重の維持と減塩の項目を比較すると、減塩よりも、適正体重の維持に気をつけている方が多いということが見てとれます。

また、年齢別に整理した表を見ていただきますと、高齢になるほど食生活に気をつけている方が多い状況というのが見てわかるかと思えます。

続きまして、咀嚼についてですが、よく噛んで味わうように心がけている方は、3次計画策定時よりほぼ変化はございませんでした。

また、ゆっくりよく噛んで食べる人の割合を全国と比べたところ、ほぼ変わらない数値になりました。

こちらも年齢別で見えますと、よく噛んで食べている方は、70歳以上が66.2%ということで、他の年齢区分の方に比べて、高い数値となっております。また、よく噛んで食べていないという方については、30歳から39歳の年代が、他の区分に比べて、高い状況となっております。

アンケート調査の結果についての説明は以上となりますが、詳細な内容につきましては冊子でご確認いただければと思います。以上です。

(渡邊部会長) ご報告ありがとうございました。

ただいまのご報告に対して、ご質問等ありますでしょうか。

<質問なし>

よろしいですか。

それでは、また後でご質問があればお願いいたします。

次に、議題3に入りたいと思います。

「第3次千葉市食育推進計画 数値目標の達成状況について」、事務局より報告をお願いいたします。

議題3 第3次千葉市食育推進計画数値目標の達成状況について

(田中健康推進課長) 資料3に基づいて説明させていただきます。

昨年実施しましたアンケート調査や、千葉市の健康増進計画の最終評価の数値等を合わせまして、食育推進計画についての数値目標についても評価を行いました。評価方法としましては、4段階で、現状を目標達成している指標については「◎」、現状値が目標に向かって改善している指標が「○」、現状値が変化していない指標が「△」、現状値が改善しなかった指標が「×」としています。

有意差検定を実施する指標については、統計的に有意に改善したものは「○」で、有意な差がないものは「△」、有意に悪化したものは「×」と評価しました。有意差検定を行わない指標については記載の通りとしています。

検定の有無については、評価一覧表の項目欄の右から2番目に記載がございました。

評価の結果は、評価一覧表の一番右の欄に記載の通りとなっております。全体としましては、数値目標33指標のうち、目標達成ができたのは3指標、改善したものは2指標、変化がなかったものが21指標、悪化したものが7指標となりました。

まず、目標達成した項目では、項目5のやせている人の割合の減少における20歳代の女性で目標を達成しました。また、項目6、先ほどのアンケート結果にもありましたが、生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩に気をつけた食生活を実施している人の割合で目標を達成しました。

また、項目11の学校給食における地場農産物を使用する割合につきまして、小学校で30%を超え、目標達成となっております。

続きまして、悪化した項目について、説明させていただきます。

項目2の共食について、先ほどのアンケート結果の通り、幼稚園の数値で残念ながら悪化しております。

また、項目3の朝食を欠食する市民の割合につきましては、小学5年生と中学2年生で悪化しております。

続きまして、項目4の肥満者の割合につきましては、小学5年生の男女で

悪化しております。

また、項目13の販売機会支援実施日数の増加では、新型コロナウイルス感染症の影響等もありまして、数字的には目標達成しておらず、悪化の評価となっております。

これらの結果を分析してみますと、生活習慣病の予防や改善のための食生活を実施している人の割合は増加している一方、実際には肥満者の割合や野菜摂取量、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事がほぼ毎日の人の割合などの項目にあまり改善が見られなかったということは、意識があっても正しい行動に結びついていないことを示しておりますので、より一層啓発を強化していかなければいけないというように評価しております。

数値目標の評価についての説明は以上となります。

(渡邊部会長) ありがとうございます。

それでは、ただいまの事務局の報告について何か質問はありませんでしょうか。

はい、お願いします。

(高澤委員) 千葉県歯科衛生士会の高澤です。ご説明ありがとうございます。

全体的に見ると、変化なしが一番多くて、悪化もあり、それらはおそらく次の計画に反映されてくると思うのですが、目標達成が3つありました。

特に項目5のやせている人の割合の減少、20歳代女性のやせの問題は全国的に大きな問題となっていますが、ここが改善されているというのは素晴らしいなと思いました。その要因としまして、たまたま減ったのか、全国的に減ったのか、結果として減ったということでも、プロセスが計画ではとても大切だと思いますので、何か千葉市として誇れる取組等がありましたら、紹介していただければと思います。よろしくお願いいたします。

(渡邊部会長) では事務局お願いいたします。

(田中健康推進課長) こちらの数値は、全国的にはここまでの改善はなかったと思っております。千葉市でここまで改善が図られたというのは、やはり学校教育の場等での様々な教育ももちろん影響しているかと思えますし、これまでの健康教育の効果があらわれたのかなと考えております。

(渡邊部会長) ありがとうございます。では志村委員お願いいたします。

(志村委員) 志村と申します。よろしくお願いします。

先ほど色々な食育の推進の取り組みについてのご説明があり、感心していたのですが、実際の数値目標の評価一覧表を見てみますと、目標達成が3、改善が2、変化なしが21との結果で、もしかしたら目標値が高すぎるのではないかなと思ったのですがいかがでしょうか。

(渡邊部会長) ご質問ありがとうございました。では事務局、ご質問についてのお返事をお願いいたします。

(田中健康推進課長) ありがとうございます。目標値については、国の計画等を見ながら設定しております。今回は特に、新型コロナウイルス感染症が数値に影響を与えていることが健やか未来都市ちばプランの最終評価でも出ておりますので、結果としてこのような評価に現れたのかなと考えております。

(渡邊部会長) ありがとうございます。

実際、いつもは対面で取り組んでいたことができなかったということは、かなり大きいのではないかと思います。

また、千葉市は保育園や幼稚園、小学校での食育は、他の市町村に比べると、充実しているというのは明らかです。例えば、各学校に栄養教諭がいるなど、そういったことの積み重ねが、色々なところで良い方向に出てきているのではないかと思います。

ただ、目標値については、今回はコロナ禍以前での数値だったので、そのあたりの影響はどうしても出てきているのではないかと思います。

それでは他にご質問ある方いらっしゃいますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは議題4に移りたいと思います。

議題4「第4次千葉市食育推進計画の骨子案について」、事務局よりご説明をお願いいたします。

議題4 第4次千葉市食育推進計画の骨子案について

(田中健康推進課長) それでは、資料4を元に説明させていただきます。

第4次千葉市食育推進計画ですけれども、まずこちらの計画策定にあたりましては、国の動向や県の動向、また、今まで千葉市が進めてきた食育の取組状況等を踏まえまして、実施して参りたいと考えております。

第4次千葉市食育推進計画の位置付けとしましては、食育基本法に基づく市町村食育推進計画であり、健やか未来都市ちばプランなど本市の関連計画と整合性を図りまして、国の計画や、県の計画の基本的な考え方を踏まえた上で、本市の地域特性や実情を反映して参ります。

方向性については、3次と変わらず、市民一人ひとりが食の大切さを考え、健康で心豊かな生活が送れるよう、食育に関する施策を総合的・計画的に推進するため、関係機関等が連携して取り組むための行動計画として策定していきたいと考えております。

計画期間ですが、市の計画は国の計画から比べると3年ほど遅れております。そのため、国の計画に段階的に近づけていきたいという思いから、次期の計画につきましては、令和6年度から9年までの4年間ということで考えております。

続きまして、食をめぐる現状と課題ですけれども、こちらにつきましては、先ほどご報告しました通り、目標達成できたものもありましたが、実際には変化がないものがほとんどというような状況でした。達成状況については、先ほど説明した通りです。

続きまして、食育推進の方向性です。こちらについては、3次と同様、基本理念としましては、子どもから大人まで市民一人ひとりが「食」を大切に、正しい知識と選ぶ知識を身につけ、健全な食生活を実践することで、「こころ」と「からだ」の健康と豊かな人間性を育む、ということを進めていきたいと思っております。

基本目標ですが、こちらはそれぞれ少し変えております。まず、キーワードは3次と同様「つながる食育」としております。

1つ目は、健康につながる食育の推進ということで、市民が生涯を通じて健康でいられるよう望ましい食習慣の普及啓発を行うことで、意識醸成をはかり、行動変容につなげていきたいと考えております。

2つ目は、未来につながる食育の推進ということで、国では第4次の計画で「SDGs」の考え方を入れましたが、そのあたりを意識して、未来につながるという言葉に変更しました。食品ロスの削減など環境と調和のとれた食料生産とその消費に配慮し、地産地消を推進するとともに、地域の多様な食文化を継承していきたいと考えております。

3つ目は、地域や関係者がつながる食育の推進ということで、項目名は3次から変えておりません。市民や関係者が連携し活動することで、誰もが自然と健康になれる環境づくりを進めるとともに、未来につながる食育を効果的に推進していきたいと考えております。国において、自然と健康になれる環境づくりという考え方を入れましたが、そのあたりを踏まえております。

推進のキャッチフレーズとしては、引き続き、「おいしいね、たのしいね、たべるってだいじだね」ということで、進めて参りたいと思っております。

数値目標等は、今後検討し、次回の部会においてご報告したいと思っております。

施策の項目としましては、引き続き5つの柱で考えております。

まず1つ目の施策項目につきましては、家庭・地域における食育の推進というところに職域という言葉を入れまして、働き盛りの食育を強化して実施していきたいと考えております。

健康づくりのための食育の推進を取組み項目の一番に据えまして、5番目は、家庭・地域における食育の推進といたしました。

また、6番目に、食品関連事業者や職域における食育の推進を取り組み項目として入れております。

その他、修正点としては、3つ目の施策項目である地産地消の推進、環境に配慮した食育の推進というところで、以前は環境に「やさしい」という言葉を使っていましたが、「配慮した」という言葉に変更しました。

また、4つ目の施策項目である食の安全・安心等に関する情報提供のところについては「等」という言葉を追加しました。

これらの項目について、それぞれライフステージに応じた食育を推進していきたいと考えております。

国の食育推進基本計画の概要をご覧くださいますと、国の重点項目としては、生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進と持続可能な食を支える食育の推進に、横断的な重点項目ということで、コロナ禍を踏まえた「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進という視点を加えております。本市では、国に対応する横断的な重点事項につきましては、それぞれの取組項目の中で、デジタル化を引き続き進めていきたいと考えております。

第4次千葉市食育推進計画の骨子案についての説明は以上となります。

(渡邊部会長) ありがとうございます。

ただいまのご報告について、ご質問等あればお願いいたします。

はい、どうぞお願いいたします。

(高澤委員) 千葉県歯科衛生士会の高澤です。

ご説明ありがとうございます。

2点ほどお聞きしたいことがあります。1点目は骨子案3番目の食育推進の方向性でご説明いただきました、基本目標の3つ目の中に、誰もが自然と健康になれる環境づくりというところが入ってきたということで、これは国の健康

日本21の次期計画でも言われています。

30代の働き盛りとか、育児に専念している方々は、どうしても自分のことが後回しになってしまい、色々な健康行動が他の年代に比べると悪くなっている傾向にあるかと思います。

今のコロナ禍で色々な状況が変わってきて、育児で大変な思いをしているワンオペのお母さん方や、食育に気を使いたくても育児で精一杯でなかなか理想の食生活が送れなく悩んでいるお母さん方に、どのように手を差し伸べていくのか。また、お金の問題等で困っている家庭では、例えば生活保護で支給されたお金も、野菜等ではなく、子どもがいる場合には菓子パンなど、すぐ食べられるものにどうしてもいつてしまい、肥満やむし歯の原因となっていることは、前から言われているところです。そういった健康に関心がない人や、健康に関心を持てない人たちに対し、この自然と健康になれる環境づくりというものを、この食育推進計画の中でどのように位置付けていくかというところが、今すぐ結論は出ないと思うのですが、そのあたりをぜひ入れていただきたいという要望です。もし何かお考えがあれば、お聞きしたいと思います。

2点目は、5番のライフステージに応じた食育の推進についてですが、ライフコースという言葉も出てきております。実際にJAGES（日本老年学的評価研究機構）が行った調査で、学校給食を経験した高齢者は、高齢期になっても食品を選ぶことができるというようなデータが出ていたことを記憶しています。ライフコースという考えも候補に入れていくということが必要なかと思いましたが、何かお考えがあれば、また今後の課題として取り組んでいただけるといいかなと思いました。以上でございます。

（渡邊部会長） ありがとうございます。

では、事務局お願いいたします。

（田中健康推進課長） まず1点目の、自然に健康になれる環境づくりのところですけども、こちらはやはり私どもだけでこういった環境を整えていくというのは難しいと考えています。

現在、減塩等については事業者の方と連携しまして、レシピづくりやイベントを実施しておりますけれども、そのあたりをもう少し拡大していきたいと考えております。

また、子ども食堂などの取り組みも、第3次の計画の時には入れられませんが、第4次の中では組み込みながら実施していきたいと考えております。

なお、ライフステージに応じた食育につきましては、国においても健康日本21の次期計画で、ライフコースという視点を取り入れておりますので、考え方や今後どのように取り組んでいくのか確認しながら、それぞれの年代を総合的にみて、食育を進めていきたいと考えております。

(渡邊部会長) ありがとうございました。

それでは、他にご質問、あるいは意見をお持ちの方いらっしゃいますでしょうか。

それでは、ほかにないようですので、「議題4 千葉市食育推進計画の骨子案について」、提案いただいた内容で決定としてよろしいでしょうか。

<異議なし>

ご異議がないようですので決定とさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

以上をもちまして、本日の審議を終了させていただきます。

皆様方のご協力により円滑に審議を進めることができました。誠にありがとうございました。

以上で、令和5年度千葉市健康づくり推進協議会 第1回食育推進部会を閉会いたします。

この後は、事務局の方にお返しいたします。

(山田健康推進課長補佐) 渡邊部会長ありがとうございました。

次回の部会は秋ごろの開催になります。近くなりましたらまた委員の皆様にご案内いたします。

それでは、本日の会議は、これを持ちまして終了となります。

委員の皆様、誠にありがとうございました。

午後8時15分閉会

令和５年度千葉市健康づくり推進協議会 第１回食育推進部会議事録を承認します。

署名人 浪邊 智子 

自署または記名押印